

ご挨拶



環境庁が昨年12月に京都で開催いたしました「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」は、その規模もさることながら、世界の第一級の専門家の参加を得て質の高い議論が活発に展開され、内外から高いご評価をいただきました。そして、こうしたシンポジウムを継続して開催して欲しいという要望が多数寄せられました。主催者として大きな喜びであります。

こうした声にお応えして、私ども環境庁では、第2回国際シンポジウムを本年12月に神戸市で開催することを企画しました。

今回のシンポジウムの主なねらいは、

- ・科学的な研究の今後の方向性と、より有効な国際協力の在り方を探ること
 - ・各国の行政施策の現状と課題を明らかにし、共通の認識を形成すること
 - ・全地球的な視点での本問題への取り組みの可能性を模索すること
- の3点です。

ここにプログラムの第一次案をお届けします。私は、この国際シンポジウムが、世界各国の科学者、行政担当者、産業界そして市民にとって、内分泌攪乱化学物質問題に関する重要で意義のあるフォーラムとなることを希望しております。是非とも多くの方々のご参加をお願いいたします。

1999年 7月 環境庁長官 真鍋 賢二

国際シンポジウムのプログラムについて

本シンポジウムは、2部構成になっています。

9日、10日の2日間は、研究者を対象としたプログラムで、専門的な内容について科学的な議論を深めることを目的とし、セミナー形式で開催いたします。

11日は、国民に幅広く参加いただくためのプログラムとして、研究者のほか、行政、産業界、環境NGO等の各界から取り組み状況を報告いただくとともに、パネルディスカッションを行います。

参加申込ご案内

参加を希望する方は、往復はがきに氏名、所属、住所、電話、ファックス番号、Eメールアドレス、参加希望日を記載の上、下記運営事務局（株式会社コングレ）宛にお送りください。参加費は無料です。

海外からの参加者は、上記と同様の項目について、ファックスもしくは電子メールを、下記運営事務局へお送りください。

各セッションでの口演は、主として招待講師により発表されますが、若干の演題を公募します。詳細はお問い合わせください。

運営事務局

東京都千代田区麹町5-3 第秋山ビルディング コングレ内
「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局
TEL 03-3263-5394 FAX 03-3263-4033 E-mail: eds@congre.co.jp

締め切り

1999年11月22日(月)必着(申込み多数の場合は、先着順となります。)

使用言語

日本語・英語(同時通訳あり)

第2回

内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム

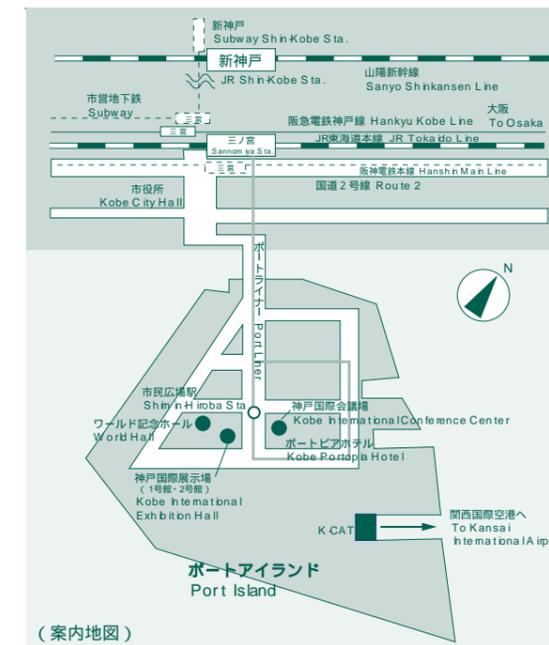
神戸国際会議場
ポートピアホール

International Symposium

主催：
環境庁

on Environmental Endocrine Disruptors '99

協力：
日本内分泌攪乱化学物質学会



会場案内

会場

12月9・10日 神戸国際会議場
兵庫県神戸市中央区港島中町6-9-1
TEL: 078-302-5200

12月11日 ポートピアホール(ポートピアホテル内)
兵庫県神戸市中央区港島中町6-10-1
TEL: 078-302-1111

神戸国際会議場とポートピアホールは、隣接しています。

交通のご案内

関西空港よりジェットシャトルとリムジンバスで約40分

新幹線「新神戸駅」から車または地下鉄とポートライナーで約20分

JR・阪神・阪急「三宮駅」から車またはポートライナー
(市民広場駅下車)で約10分

参加申し込み・お問合せ先

株式会社コングレ内
「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局
〒104-8481 東京都千代田区麹町5-3 第7秋山ビル
TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-3263-4033 E-mail: eds@congre.co.jp

シンポジウムの内容に関するお問合せ先

環境庁環境保健部環境安全課
〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関1丁目2番2号
TEL: 03-5521-8261 FAX: 03-3580-3596 E-mail: ehs@eanet.go.jp

ポスターセッションに対する応募・お問合せ先

日本内分泌攪乱化学物質学会事務局
〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前24-1-202
TEL: 0298-69-0818 / 0298-60-2332 FAX: 0298-60-2570 E-mail: km ar@niesgo.jp

プログラム

神戸国際会議場			
		メイン会場 (約700名収容)	第2会場 (約300名収容)
12月9日(木) 1日目	午前	(開会挨拶) (特別講演)	
		セッション1:スクリーニング・試験	
	午後 (夜)	セッション2: 作用メカニズム	セッション3: 魚類の試験法
12月10日(金) 2日目	午前	セッション4: 野生生物への影響	セッション5: 日本での調査研究活動
		(ポスターセッション)	
	午後 (夜)	セッション6: 健康影響	セッション7: 基礎生物学と環境毒性学
		(レセプション)	

ポートピアホール

12月11日(土) 3日目	午前	(環境庁長官挨拶) (来賓挨拶)	
		第1部 ダイオキシン問題	
	午後	第2部 内分泌攪乱化学物質問題	
		第3部 パネル・ディスカッション	
		(閉会挨拶)	

招待講師

Herman Adlercreutz
University of Helsinki, Finland

Howard A. Bern
University of California-Berkeley, U.S.A.

Robert M. Bigsby
Indiana University School of Medicine, U.S.A.

Bruce Blumberg
University of California-Irvine, U.S.A.

David Crews
University of Texas, U.S.A.

Barbara J. Davis
National Institute of Environmental Health Sciences, U.S.A.

M. Cristiana Fossi
University of Siena, Italy

藤井 義明
東北大学理科学研究所

D. Michael Fry
University of California-Davis, U.S.A.

Kevin Gaido
Chemical Industry Institute of Toxicology, U.S.A.

Andrea C. Gore
Mt Sinai School of Medicine, U.S.A.

Geoffrey L. Greene
University of Chicago, U.S.A.

Louis J. Guillette, Jr.
University of Florida, U.S.A.

Peter Hauser
University of Maryland, U.S.A.

井口 泰泉
横浜市立大学理学部機能化学科

井上 達
国立医薬品食品衛生研究所

Robert Kavlock
U.S. Environmental Protection Agency, U.S.A.

Kenneth S. Korach
National Institute of Environmental Health Sciences, U.S.A.

Peter Matthiessen
Center for Environment, Fisheries and Aquaculture Science, UK

John A. McLachlan
Tulane University, U.S.A.

諸橋 憲一郎
岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所

長濱 嘉孝
岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所

Larry L. Needham
Center for Disease Control and Prevention, U.S.A.

Richard E. Peterson
University of Wisconsin-Madison, U.S.A.

Niels E. Skakkebaek
Rigshospitalet, Denmark

鈴木 継美
元国立環境研究所長

Peter Thomas
University of Texas, U.S.A.

Weida Tong
ROW Science Inc., U.S.A.

Frederick S. vom Saal
University of Missouri-Columbia, U.S.A.

Timothy R. Zaczewski
Michigan State University, U.S.A.

セッション

各セッションの概要

セッション1 スクリーニング・試験	化学物質の内分泌攪乱作用の有無を確認するスクリーニング・試験のプログラムがOECDや米国環境保護庁(EPA)において検討されてきましたが、本セッションでは、スクリーニング・試験法の開発の現状、課題等について議論します。
セッション2 作用メカニズム	分子生物学の発展に伴い、内分泌攪乱化学物質の細胞・分子レベルでの作用メカニズムが解明されつつありますが、本セッションでは、レセプターや細胞内情報伝達系を介した作用メカニズム、構造活性相関等について議論します。
セッション3 魚類の試験法	内分泌攪乱化学物質による生態影響を評価するために、魚類を使用した試験法の開発が進められていますが、本セッションでは、試験法の開発に関する科学的知見の交換を行います。
セッション4 野生生物への影響	さまざまな野生生物種において、内分泌機能や生殖・発育の障害が報告されており、これらの異常現象と内分泌攪乱化学物質との関連について研究が進められていますが、本セッションでは、最新の科学的知見の交換を行います。
セッション5 日本での調査研究活動	日本では現在、産学官の連携により、内分泌攪乱化学物質問題に対する調査研究が強力に進められていますが、本セッションでは、日本における取り組みを取り上げ、科学的知見の交換を行います。
セッション6 健康影響	本セッションでは、精液性状の悪化や生殖器障害などの疾患と内分泌攪乱化学物質との関連、甲状腺機能の攪乱による発達神経障害、植物エストロゲンによる健康影響等について議論します。
セッション7 基礎生物学と環境毒性学	生物の内分泌や生殖機能に関する基礎生物学的知見の蓄積が、内分泌攪乱化学物質による生物への影響についての議論を深めるために不可欠ですが、本セッションでは、基礎生物学と環境毒性学の連携の強化を模索します。
ポスター・セッション	日本内分泌攪乱化学物質学会主催により、ポスター発表が行われます。 ポスター・セッションでの演題の発表を希望する方は、日本内分泌攪乱化学物質学会事務局まで問い合わせください。 連絡先: TEL: (0298)59-0818 / (0298)50-2332 FAX: (0298)50-2570 E-mail: kmari@nies.go.jp
市民向け	
パート1 ダイオキシン問題	各国におけるダイオキシンに対する取り組みを紹介し、情報の交換を行います。
パート2 内分泌攪乱化学物質問題	各国における内分泌攪乱化学物質に対する取り組みを紹介し、情報の交換を行います。
パート3 パネル・ディスカッション	さまざまな分野の専門家が一堂に会し、内分泌攪乱化学物質問題の解決に向けた建設的で具体的な議論を行います。